

第1学年 算数科学習指導案

日時 令和5年10月26日(木) 5校時
児童 1年1組 18名
指導者 日下 理子

1 単元名 「ひきざん」【A 数と計算】

2 単元の目標

- (1) 減法の意味について理解し、それらが用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。また、1位数と1位数の減法計算を確実にできる。【知識・技能】
- (2) 数量の関係に着目し、計算の意図や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりしている。【思考力・判断力・表現力】
- (3) 数や式に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。【学びに向かう力・人間性】

3 単元について

(1) 児童の実態

レディネステストの結果より、答えが10以内の減法計算は、ほとんどの児童ができています。ただし具体物操作がなければ計算できない児童が1割程います。

自分の考えを表現することについては、自力解決の際に自分の考えをもち、答えを話すことができる児童が多い。しかし、考えたことを図で書いて表現したり、根拠を説明したりすることが難しい児童も半数ほどいます。前単元のたし算（和が10より大きい数になる加法）において、計算の手順の説明の仕方について練習する必要がある。既習事項を全体で確認し、数の見方を確かめることも必要である。

(2) 系統性

第1学年において、これまでに「10の合成と分解について」、「減法が用いられる場合やその意味、被減数が10以内の減法計算」「2位数（十いくつ）の構成を10といくつととらえることによって15-5、15-3のような減法計算」ができるようになっていく。第11単元「たしざん」では既習の数の見方を活用し、未習の計算の仕方考えた。

本単元では、これらの数の見方や計算の意味、未習の計算の見つけ方などを活用し、11~18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を既習の数の見方及び計算に帰着して考えるとともに、それを日常生活に生かそうとする態度を養うことをねらいとしている。

(3) 本単元の指導

本単元で育てたい資質・能力は、「10とあと幾つ」という数の見方に着目し、新たな数範囲の減法の計算の仕方について考える力である。

そこで指導に当たっては、「10とあと幾つ」という数の見方に着目することにより、既習の整数の計算に帰着できることを発見する過程を大切にする。計算の仕方を説明する際には、「10といくつになるように」とお話をしながらブロック操作をさせる。ブロック操作は、先生と、ペアと、自分だけでなど、繰り返して声に出しながら行う。また、計算過程で用いる「さくらんぼ計算」についても、多様な方法で繰り返し行わせる。そうすることで、新しい計算方法である「減加法」や「減々法」の定着を図る。

(4) ユニバーサルデザインとの関わり

本単元は、「10とあと幾つ」という数の見方を活用することが大切である。【視覚化】として、課題解決のためのポイントを確認してから、考え方にいくつかの選択肢を提示する。それにより、数の見方について焦点化させて話し合わせる。【共有化】として、友達の考えた計算図について、ブロック操作をしながら説明させる。それにより、全員に数学的な見方・考え方のよさに気づかせる。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 1位数と1位数の減法の計算が確実にできる。	① 「10とあと幾つ」という数の見方を用いて、計算の意味や計算の仕方を考えている。	① 学習したことをもとに、10より大きい減法の計算の仕方を考えようとしている。

5 指導と評価の計画 (10 時間)

時間	ねらい (目標)	評価規準・評価方法		
		知	思	態
1	「10といくつ」という数の見方に着目し、 $13-9$ の計算の仕方(減加法)を考える。		・思① (観察)	
2	既習の加減計算や「10といくつ」という数の見方を基にした $13-9$ の計算の仕方(減加法)を理解する。	・知① (観察・ノート)		
3	「10といくつ」という数の見方に着目し、減数が8や7の場合の計算の仕方(減加法)を考える。		・思① (観察・ノート)	
4	「10といくつ」という数の見方に着目し、減数が9～5の場合の減加法の理解を確実にする。	○知① (観察・ノート)		
5 (本時)	「10といくつ」という数の見方に着目し、 $12-3$ の計算の仕方(減々法)を考える。		・思① (観察・ノート)	
6	$11\sim 18$ から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の練習や、文章題の解決を通して計算の仕方についての理解を深める。			○態度① (観察)
7	減法の計算能力を伸ばす。	・知① (観察・ノート)		
8				
9	計算カードの並び方について、被減数と減数の関数的な見方にふれる。		○思① (観察・ノート)	
10	学習内容の定着を確認するとともに、単元で学習したことのよさを感じ価値づける。	○知① (観察・ノート)		○態度① (観察・ノート)

5 本時の指導 (5/10 時目)

(1) 本時の目標

「10とあと幾つ」という数の見方に着目し、計算の仕方をブロック操作や計算図を用いて表したり、それらを言葉で説明したりする活動を通して、減々法について理解することができる。

(2) 評価規準

「10とあと幾つ」という数の見方に着目し、計算の仕方をブロック操作や計算図を用いて表したり、それらを言葉で説明したりしている。

【思考・判断・表現】

(4) 板書計画

<p>10/26 p 8 1</p>	<p>もんだい</p> <p>おかしが12こあります。 3こたべると、のこりはなんこですか。 けいさんのしかたをかんがえましよう。</p> <p>ケーキの絵</p> <p>しき $12 - 3$</p> <p>□□□□□□□□□□ → 3ひく</p> <p>□□</p> <p>こたえ 9こ</p> <p>$12 - 3 = 9$</p> <p>10 2 7</p> <p>12は10と2</p>	<p>かだい</p> <p>ばらからひくけいさんのしかたをかんがえよう。</p> <p>□□□□□□□□□□ → 1ひく</p> <p>く</p> <p>□□ → 2ひく</p> <p>3をわけて 2と1にする。</p> <p>$12 - 3 = 9$</p> <p>10 2 1 9</p> <p>① 2から3はひけない。 ② 3を2と1にわける。 ③ 12の2から2をひく。 ④ 10から1をひいて9。</p>	<p>まとめ</p> <p>10といくつとみる。 うしろのかずをわけてひいていく。</p> <p>チャレンジ</p> <p>⑦ $12 - 4$ ⑧ $12 - 4$ ⑨ $12 - 4$</p> <p>1 3 2 2 3 1</p> <p>□□□□□□□□□□ → 2ひく</p> <p>く</p> <p>□□ → 2ひく</p> <p>ふりかえり</p>
------------------------	---	---	---

ポイント